

❖団体名	公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)
❖ASC2021 実施日	2023年4月21日

❖セルフチェック結果

指針項目	項目数	実現している項目数	実現していない項目数
組織運営基準	18	15	3
事業実施基準	11	10	1
会計基準	11	11	0
情報公開基準	4	4	0
合計	44	40	4

❖アカウンタビリティへの考え方

(公社) 日本国際民間協力会は、1979年の発足以来、また、2010年からは公益法人として、活動に関係するすべてステークホルダーに対して説明責任を果たし、活動を誠実に実施するよう常に心掛けています。40年以上続いてきた組織であるからこそ、現状に慢心せず、凡事徹底、日々の積み重ねと定期的な検証をもって、アカウンタビリティの一層の向上を図り、社会からの期待に応えられるNGOとして組織力強化に努めて参ります。

今回のチェックで確認した「実現していない項目」についてはもとより、実現しているとした項目についても改善の余地があること（特に組織運営基準）が分かったことから、早急に見直しと改善を図って参ります。

❖アカウンタビリティ向上の取組み紹介

- ① 組織全体の中長期計画の策定および評価の実施
- ② 性的搾取・虐待・ハラスメントの禁止の明文化、および、防止と発生時の対応制度の整備
- ③ 事業を実施・継続するプロセスの体系化

❖上記取組みの実施状況

① 組織全体の中長期計画の策定および評価の実施

事業・組織運営・財源の方針は、これまで定期的開催される理事会で話されてはいても明文化はされてこなかった。また、一部職員の間では、中長期計画策定の提案がなされていたが、キャパシティ（人手、知識・経験、財源など）が不足していること、目の前の事業を優先する結果、具体的な話し合いができなかった。しかし、今回のセルフチェックを機に、社会から信頼される持続的な活動を行うためには、組織の基盤を強化するための体制、財務基盤づくりを含む中長期計画の必要性を認識するに至っている。今後、実行できる中長期計画について役職員で議論し、明文化していく。かつ、その計画に基づいた活動・運営を実施し、安定した組織基盤強化と支援活動を行っていく。

② 性的搾取・虐待・ハラスメントの禁止の明文化、および防止と発生時の対応制度の整備

現状は、就業規則にて禁止事項と罰則について触れられている程度なので、より具体的な方針や通報制度、防止策を整えていく。

③ 事業を実施・継続するプロセスの体系化

事業の承認プロセスは明文化され、遂行されているが、事業を実施・継続するプロセスを解説したマニュアル等の作成が属人的となってしまう。今後は、マニュアルの作成方法や記載事項のルールを作っていく。また、職員の退職や人事異動の際、後任への情報の引継ぎが滞らないよう、マニュアルの補完となる引き継ぎ書についても定型化を計り、今後充実させていく。